

ショーレジソン STE-500  
各種配管回りコーキング工事

## 施 工 要 領 書

ショーレジソン 株式会社

# 施工要領

## I. 準備

材料を混練するための保護具を用意する。エポキシ樹脂は素手で触るとかぶれることがあるのでゴム手袋等の保護具を用意する。また手を湿らせるためのバケツ等を用意する。

## II. 管回り下地処理

コーキング材の接着を阻害する恐れのある油分・塗料・錆・モルタル層等が有る場合は、これを除去して表面を露出させる。

被覆管の場合・・・被覆を除去する。（エポキシ系の塗膜で十分な接着力がある場合は塗膜表面を面粗しし、油分の汚れを落とす。）

塩ビ管の場合・・・接着面の十分な面粗しを行い、油分等の汚れを落とし清掃する。

## III. 材料の取り出し

ゴム手袋を着用し、使用するだけの材料を箱から取り出す。このとき主剤及び硬化剤の比率が1：1\*になるように計量器等を用いる。

\*比率に差が生じた場合、未硬化の原因となる。

充填量の算出・・・容量（ℓ）× 1.55（比重）× ロス\* = 使用量（kg）

\*推奨ロス率20%。

## IV. 混練

取り出した主剤（黒）及び硬化剤（白）を混ぜ合わせる。このとき混ぜ合わせた材料の色が薄灰色（ライトグレー）になるまで良く混ぜ合わせる\*。

\*均一に混練されていないと、未硬化の原因となる。

## V. 充填作業

ゴム手袋を着用し、充填箇所へ空気が入らないように押し付けるように充填する\*。

\* 充填厚20mm以上推奨。

([図-1](#) 参照)

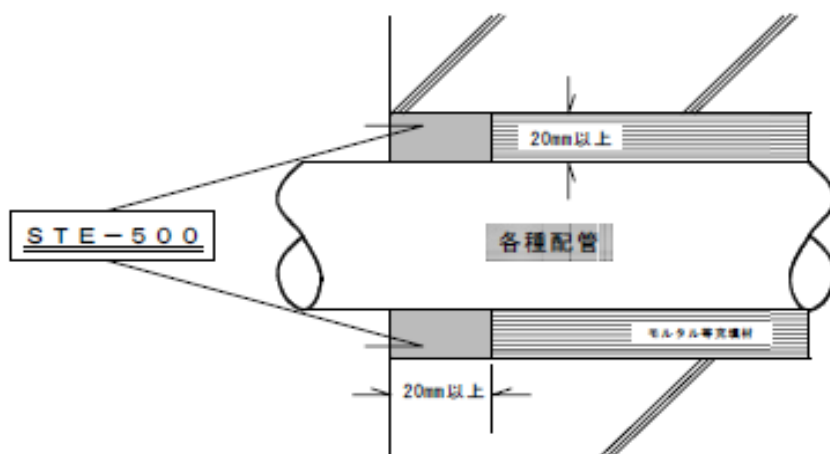


図-1 施工断面図

外装上支障がない場合は[図-2](#)のように施工すると、止水性向上の効果を得られる。

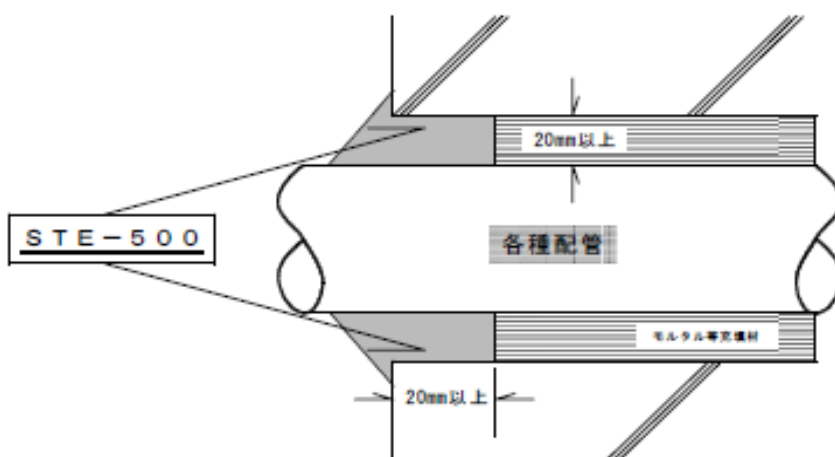


図-2 施工断面図